

令和2年度 入所Bチーム活動報告

BPSDのある認知症利用者への 個別ケアの取り組み

～センター方式24時間生活変化シートを用いて～

リーダー： 高見恵太

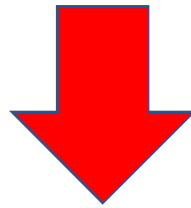
メンバー： 宮本恵理子 西山恵美

加藤慶祐 田中ちえ 荒木俊介

渡部静登 松本オリエ 濱田竜太



BPSDとは幻覚・妄想・興奮・不穏などの
認知症状の行動と心理状況を表す Behavioral and
Psychological Symptoms of Dementiaの略語



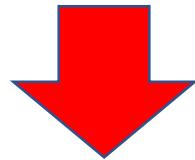
BPSDのある認知症利用者の
訴えに対して不適切なケアを
行っているのではないか？
ケアの統一性がなく利用者を
混乱させているのではないか？



《目標》

認知症利用者のBPSDが軽減し、
穏やかな生活を送ることができる

認知症利用者の行動や気分の変化から
個別ケアのヒントが得られるはず！



センター方式24時間生活変化シート
(以下24時間シート)を使ってみよう



センター方式 24時間生活変化シートとは？

認知症の人の気分の変化に何が影響していたのかを把握し、予防的に関わるタイミングや内容を見つけるためのシート。

24時間の気分の変化を数日間記入して並べてみることで1日の変化のパターンを発見したり、気分を左右する要因を見つけ出せる。

【事例紹介】

92歳 男性 要介護3

視力低下

アルツハイマー型認知症

妻は？財布は？
ご飯食べていない！



職員が対応するが・・・
大声や乱暴な発言が見られた

【取り組み方法】

1. 情報収集とアセスメント

1) 利用者の生活の様子を2週間観察

穏やかに過ごされている時、BPSD
出現時など行動に変化があった時
24時間シートに記入

2) チーム会で 24時間シートで得た 情報の分析



2. ケア方法の決定と実施

- 1) ケア方法を決め、全職員に周知し
ケアの実施

3. 評価

- 1) 阿部式BPSDスコア(以下ABS)で
ケア前後の点数比較
- 2) ケア実施後の利用者の様子を観察



阿部式BPSDスコア (ABS) とは

認知症に見られる
BPSD10項目について
頻度と重症度によって
0～9点を配点し
その合計でBPSD度を
判定するスコア

阿部式BPSDスコア				
	日付		氏名	
質問項目	殆ど ない	たまに ある	時々 ある	よく ある
①徘徊して困る	0	3	6	9
②食事やトイレの異常行動	0	3	6	9
③幻覚や妄想がある	0	2	4	6
④攻撃的で暴言を吐く	0	2	4	6
⑤昼夜逆転して困る	0	2	4	6
⑥興奮して大声を出す	0	1	2	3
⑦やる気がなく何もしない	0	0	1	2
⑧落ち込んで雰囲気が暗い	0	0	0	1
⑨暴力を振るう	0	0	0	1
⑩いつもイライラしている	0	0	0	1
			合計	/44

【取り組み内容と結果】

1. 24時間シートからわかったこと

1)出現したBPSDは幻覚や妄想、攻撃的発言、興奮して大声を出すなどだった。

2)本人の訴えは「食事を食べていない」「財布がなくなった」「妻はどこにいる」等が多かった。

3)不穏時の職員の対応がバラバラであった。

4)演歌やカラオケを聴いている時は落ち着いて過ごされていた。

2. ケア方法

- 1) 本人の混乱を避けるため、奥さんは他施設に入所されている事を伝える。
- 2) お金は家族が管理しており、持っておられない事など事実を伝える。
- 3) 時間感覚の定着をするため朝・昼・夕の食前に馴染みのある音楽をかけ、食事前である事を認識してもらおう。
- 4) 配膳時には必ずいつの食事かを伝える。

3. 評価

1) ABSの前後比較



ABSで高得点項目だった3項目の変化

③幻覚や妄想がある 6点 → 0点

④攻撃的で暴言を吐く 4点 → 0点

⑥興奮して大声を出す 2点 → 0点

(R2.9.26)

(R2.11.6)

2)ケア後の本人の様子

- ・音楽を聴きながら歌を口ずさんでおられる姿が増えた。
- ・不穏の訴えが減り、穏やかに過ごされている事が増えた。



【考察】

- 24時間シートを使用することで不穏の内容や傾向を知り、その人にあったケア方法を考えることができた。
- 職員によって対応がバラバラだと認知症利用者は混乱しさらに不安を募らせBPSDを引き起こし助長させる要因となると考えられる。
対応を統一し、事実を伝えケアを実施した事で混乱を防ぎ落ち着いて過ごされる時間が増えたと考えられる。

- 食前に音楽を聴くことで時間感覚の定着を図ったが、食前であることの認識はできなかった。
- 音楽は情動に直接働きかけるためBPSDの軽減に効果があるといわれている。
元々音楽を聴くことが好きであったという情報もあり、ケア方法に音楽を取り入れたこともBPSDの軽減に効果があったと考えられる。



【まとめ】

今回の事例より、認知症を有する利用者に対し「安心」へつながる声掛けや、その人に合ったケア方法を明確にし、実践することが大切であると再認識できた。

一方で症状出現の時間帯や季節の変わり目など、悪化する傾向をつかみ、今後は予防的な関わり方も

考えていく
必要がある。

